

2024年10月30日

日本台湾学会会員各位
台湾史研究会会員各位

日本台湾学会第22回関西部会研究大会

錦秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

下記の要領で第22回日本台湾学会関西部会研究大会を開催いたします。例年どおり、リモート配信（Google Meetを使用）も行いますので、皆様にはオンライン上でもふるって御出席くださいますようお願い申し上げます。今回は香港との比較研究を試みるシンポジウムも開催いたします。

また今年度も会場近くにて懇親会も行います。

なお、当大会は、日本台湾学会と台湾史研究会との共催で運営しております。

記

日時：2024年12月14日（土） 9時30分（受付開始）～

会場：関西大学千里山キャンパス 第二学舎1号館A503教室

およびGoogle Meetの併用

会場へのアクセス 阪急電鉄千里線「関大前」駅下車、すぐ（正門までは徒歩約5分）

<https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/campus/#senriyama>

キャンパスマップの2-1の建物です

https://www.kansai-u.ac.jp/ja/assets/images/about/campus/img_senriyama_map.png

参加を希望される方は下記より、12月7日（土）までにお申し込みください。

<https://forms.gle/eQ4GsiwM265GywiG6>

<プログラム>

各研究報告 報告時間 20分 コメント 10分 質疑応答 10分 ※リモート参加

10時 開会の辞 台湾史研究会代表 やまだあつし（名古屋市立大学）

第1部 司会 やまだあつし

第1報告 10時10分～10時50分

題目：台湾の地方選挙と基層社会——80年代以降の桃園県観音・新屋地区を例として

報告者：都通憲三朗（駒澤大学仏教経済研究所）

評論：小笠原欣幸（東京外国語大学名誉教授）※

第2報告 11時～11時40分

題目：日本統治時代末期台湾における従軍看護助手の派遣

報告者：下田梓（名古屋大学大学院）

評論：宮崎聖子（福岡女子大学）※

第3報告 11時50分～12時30分

題目：台湾作家朱西甯による香港の雑誌への寄稿——「アメリカ援助体制」との関わりについて

報告者：宋元祺（関西学院大学大学院）

評論：呉穎濤（大阪大学大学院）

休憩 12時30分～13時20分

第2部 司会 北波道子（関西大学）

第4報告 13時20分～14時

題目：台湾アテモヤの対中輸出 — 依存、禁輸、禁輸解除をめぐる生産地の政治経済学

報告者：下野寿子（北九州市立大学）

評論：松本充豊（京都女子大学）

第5報告 14時10分～14時50分

題目：地域の人神関係と信仰形態 — 小琉球迎王の「攔轎申冤」における神との交流

報告者：黄信棋（筑波大学大学院）

評論者：三尾裕子（慶應義塾大学）

第3部 15時～17時

シンポジウム「合わせ鏡としての香港——文学研究の視点から」

台湾と香港の距離は近いようで遠い。2014年の雨傘運動以来、政治的接近があったものの、歴史的背景や言語などの相違によって、両者を比較しつつ研究がなされてきたとは言い難い。しかし台湾の独自性を浮かび上がらせる上でも、比較対象としての香港は極めて重要な存在のはずである。今回の香港特集では、文学研究の視点から香港を見つめ直すことで、香港研究の意義、台湾研究にもたらすインパクト、日本における研究の可能性について考えてみたい。

司会 澤井律之（京都光華女子大学元教授）

報告 1

李宗泰（クリス、LI, Kris Chung Tai）（大阪大学大学院）

「当事者以外による表象とその倫理の行方——梁莉姿『樹の憂鬱』を例として」

報告 2

李凱琳（Lee Hoi Lam）（香港中文大学博士）

「リアリズムで香港社会を描く——王政恒『南歸貨車』と張婉雯『微塵記』」

報告 3

大東和重（関西学院大学）

「日本における香港文学研究——今後の可能性を探る」

各報告時間 25分

17時閉会

18時 懇親会

会場 Cape Cod （大学正門の近く）

〒565-0842 大阪府吹田市千里山東 1-10-4 tel 06-6380-8890

<https://kandaimae-capecod.com/>

会費 4000円

以上。